

北海道帝國大學
助教授理學士
五藤祐舜
北海道廳技手
須崎忠助
共著

北海道藥用植物圖彙

東京
川流堂小林又七發行

大正十一年四月一日印刷
大正十一年四月五日發行

定價金 五圓

著者

北海道札幌區北三條西十五丁目一番地
工藤祐舜

著者

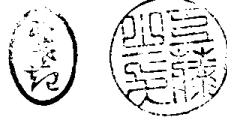
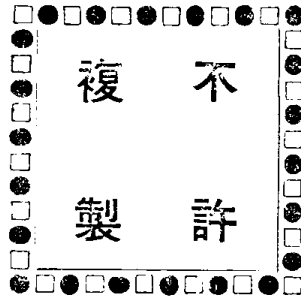
北海道札幌區大通西十七丁目四番地
須崎忠助

發行者兼
印刷所

東京市麴町區隼町四番地
小林又七

印刷所

東京陸軍省構内
小林印刷所
電話銀座座三〇六九番



發賣元

東京市麴町區隼町四番地(三宅坂)

川流堂 小林又七

電話九段四一九番
電話九段八五〇番
振替口座東京二九六番

自序

大正元年職ヲ北海道帝國大學ニ奉シテヨリ既ニ十星霜ヲ經過セリ。其間擔任學科ノ講義、學生ノ指導及公務ニ從事セシ餘暇ハ、萬事ヲ拋擲シ、專心北海道植物ノ研究ニ没頭セリ。爲メニ今ヤ北海道植物ヲ正當ニ理解スルノ時機ニ到達セリ。

大正六年北海道廳ニ於テ開道五十年記念博覽會ニ出陳センカ爲メ本道産林野藥用植物ノ調査及其標本製作ノ議起リ、予其囑託ヲ受ケ、同年七月及八月ノ夏期休業ノ時機ヲ利用シ、本道各地ニ互リ其調査ヲ進メ、兼テ標本採集ヲ爲シ、其得タル標本中ヨリ八十種ヲ撰定シ、之レニ簡單ナル説明ヲ附シ、翌年開催セラレタル開道五十年記念博覽會林業館ニ出陳シ、公衆ノ觀覽ニ供セリ。

爾來自ラ本道所産藥用植物ニ親シムニ至レリ。大正八年九月北海道帝國大學

ニ於テ有用植物分類學ナル學科ノ新設セラルルヤ予之レヲ擔任スルニ方リ、有用植物研究ノ一步トシテ北海道ニ野生スル藥用植物ハ勿論廣ク有用植物ノ調査ノ最モ必要ナル感ヲ禁スル能ハサリキ。

而シテ曩キニ調査セル本道藥用植物調査ノ公表ヲ慫慂スル友人アリシモ、之ヲ訂正スルノ機會ナク從テ公表スルニ至ラサリキ。然ルニ北海道廳技手須崎忠助氏ハ予ニ北海道藥用植物調査ノ公表ヲ勸メ、且ツ氏ハ自ラ公務ノ餘暇ヲ利用シ己ニ描畫セル圖ヲ提供セリ。氏ハ植物ノ描畫ニ多年ノ經驗ヲ有シ特殊ノ畫能ヲ備フルノ士ナリ。依リテ氏ノ圖ヲ取捨シ之レニ予力兼テ調査セルモノヲ加ヘ、百種トナシ氏ノ望ミニ應シタリ。

爾來氏ハ公暇ノ寸隙ヲ利用シ描畫ニ從事シ、今ヤ百枚ノ圖畫ヲ完成セリ。予ニ於テ其ノ説明ヲ試ムルニ方リ意ニ滿タサル所多ク、且ツ予ノ淺學菲才ナル盡ササル所多キヲ恐ル。然レトモ聊タリトモ本道有用植物ノ調査ニ刺戟ヲ與ヘ若クハ本道植物研究者ニ興味ヲ與フル所アラハ开ハ予ニ取リテ望外ノ幸ナ

リ。

本調査ニ方リ直接又ハ間接ノ援助ヲ蒙リタル北海道帝國大學教授理學博士宮部金吾氏、同林學博士新島善直氏、同農學博士東海林力造氏、北海道廳技師林學士林駒之助氏、農商務省技師林學博士白澤保美氏、朝鮮總督府技師石戸谷勉氏、臺灣總督府技師林學博士金平亮三氏、同技手佐々木舜一氏ニ對シ深厚ナル謝意ヲ表ス。

大正十年十月

札幌北三條ノ寓居ニ於テ

工 藤 祐 舜 識

自序

予ノ職ヲ北海道廳ニ奉スルヤ北海道主要樹木圖譜描畫ノ任ニ當ラシメラル。
拙劣ノ技、淺薄ノ識、到底其任ニ非サルヲ知ルト雖、廳命辭スルヲ得ス、偏
ニ其樹種ノ形態色彩ヲ誤ラサランコトヲ勉メタリ。從テ之ニ要スル新鮮ナル
材料ノ採集ニ方リ、山間僻地ニ宿泊シテ時疫害虫ニ襲ハルルコト數次、急ニ
醫藥ヲ求メントスルモ能ハス、却テ里人俗用ノ草根木皮ニ救ハレタリ。茲ニ
於テカ本道所産ノ藥草ニ留意シ、自他ノ急ニ應セント志シ、其資料ヲ著書ニ
圖畫ニ求メント欲シテ得ス。依テ一ニハ記憶ノ資料トシ、一ニハ公暇消閑ノ
爲ニ、專念之レカ畫筆ニ親シムヲ以テ無二ノ快事トセリ。

然ルニ偶々大正六年理學士工藤祐舜氏ノ道廳ノ囑ニ應シ、本道産藥草ノ調査
ヲ開始セラルルヲ知り、予ハ竊カニ好件ヲ得タルヲ悦ビ、疑義アル毎ニ之ヲ
同氏ニ質シ、漸次本道藥草ノ數ヲ加へ、益々其圖畫ノ増加スルヲ欣ヒタリ。

キ。

六

踵テ大正七年八月、開道五十年記念博覽會林業館ニ約八十種ノ藥用標本出陳セラルルヤ、之レカ圖說ノ公表セラルルモノアラハ、世ノ同感ノ士ニ多大ノ利便ヲ與フルモノナルコトヲ信シタリ。是ニ於テ予ハ工藤祐舜氏カ曩キニ調査セラレタル藥草ノ公表ヲ勸メ、且ツ描畫シタル材料ヲモ提供シタリ。

氏ハ予ノ圖畫ニ對シ取捨撰定セラルルト共ニ、新タニ蒐集檢覈セラレタル標本ヲ加ヘテ百種ヲ示サル。爾來公務ノ餘暇、燭ヲ旦暮ニ繼キ漸ク此稿ヲ脱シタリ。

而シテ小林印刷株式會社社長小林又七氏ハ予カ亡父ト深交アリキ。依テ之レカ發刊ヲ慫慂セルニ深厚ナル好意ヲ以テ迎ヘラレ、忽チ上梓ヲ快諾セラレタルハ予ノ最モ感謝スル所ナリ。

尙ホ予ハ年齒健康ノ許ス限り描畫ヲ連續シ、漸次本道產有用植物ノ諸種ニ及ホシ、以テ畢生ノ天職ニ活キンコトヲ欲ス。然レトモ本圖ハ素ト無識拙劣ノ

筆、能ク其細微ニ入ルヲ得スト雖、幸ニ工藤祐舜氏カ多年蘊蓄セラレタル學識ト、深甚ナル研鑽トノ説明ニ待テ、啓蒙ノ一端トナリ、採集ノ幫助ト爲ルコトアラハ、當初記憶ノ便ニ資セル「ノート」ノ復活ト、利用セル寸陰、共ニ空シカラサルヲ得テ、最モ欣懷ノ至リニ絶エサルヘシ。因テ茲ニ其動機ト經過トヲ述ヘテ以テ序ト爲ス。

大正十年十月

須崎忠助識

例言

一 本書ハ北海道諸學校ニ於ケル植物學科ノ參考用トシ又農林、藥物、工業及商品等ノ學ニ從事スル人竝ニ一般植物研究者ノ參考用トシテ著述シタルモノナリ。

二 本書ハ北海道所產藥用植物ヨリ百種ヲ撰定シ之レカ圖ト説明トヲ掲ケタリ。

三 圖ハ凡テ原圖ニシテ概ネ著者自身採集セル北海道產材料ヨリ描畫シ自然大ヲ主眼トセシモ大形ノモノハ畫面ニ準シ之ヲ縮小シ使用ニ便ナラシメタリ。

四 諸科配列ノ順序ハ最近ノ「エングレル」自然分類法ニ據レリ。

五 説明ニ於テ形態ノ條下ニ種類ノ特徵ノ外屬又ハ科ノ特徵ニ入ルヘキモノヲ加ヘタルモノハ實地ノ使用ニ便センカ爲メナリ。又產地ノ外ニ分布ヲ記入シ以テ北海道植物ト隣邦植物トノ關係ヲ明カニセリ。

六 用途ニ關シテハ今日マテ知ラレタル事實ヲ勉メテ蒐集シ又諸書ヲ參考セリト雖左記ノ圖書ニ負フ所多ク引用セルモノハ其頁數ヲ掲ケタリ。

宮部金吾。三宅勉共著 樺太植物調查概報(宮部、三宅、樺、植、概)明治三十九年

下山順一郎著 日本藥局方註解六版(局方註)大正三年

宮部金吾、三宅勉共著 樺太植物誌(宮部、三宅、樺、植、誌)大正四年

石戸谷勉著 朝鮮漢方藥用植物調查(石戸谷、朝、漢、藥、植)大正六年

農商務省山林局編 時局ト森林、藥用森林植物(山林局、時局ト森林)大正六年

日野五七郎、一色直太郎合著 最新和漢藥物學(日野、一色、和、漢、藥)大正七年

牧野富太郎、入江彌太郎合著 雜草ノ研究ト其利用(牧野、入江、雜、研)大正八年

沖田秀秋著 藥用植物製造學(沖田、藥、植、製)大正八年



Rhus javanica L. ぬ る じ。



Erythronium dens-canis L. var. japonicum Bak.
かたくり。



Gentiana yuparensis Takeda. うすあかりんどう。

北海道薬用植物圖彙目次

水龍骨科

一 えぞめんま。

木賊科

二 とくさ。

石松科

三 ひかけのかづら。

松柏科

四 ごえふまつ。

五 はひぬず。

六 りしりびやくしん。

香蒲科

七 がま。

澤瀉科

八 さじおもだか。

天南星科

九 しやうぶ。

一〇 てんなんせう。

一一 ひろはのてんなんせう。

一二 からすびしゃく。

燈心草科

一三 め。

百合科

一四 ばいけいさう。

一五 おほしゆろさう。

一六 のびる。

一七 おにゆり。

一八 かたくり。

一九 きみかけさう。

二〇 えんれいさう。

二一 さるとりいばら。

蘭科

二二 はくさんちどり。

二三 てがたちどり。

二四 つちあけび。

二五 おねのやがら。

二六 さいはいらん。

三白草科

二七 どくだみ。

樺木科

二八 しらかんば。

殻斗科

二九 くり。

三〇 かしは。

榆科

三一 はるにれ。

桑科

三二 やまぐは。

馬兜鈴科

三三 うすばさいしん。

蓼科

三四 みちやなぎ。

三五 えぞのいぶきとらのを。

三六 いしみかは。

苧科

三七 めのこづち。

商陸科

三八 やまごぼう。

石竹科

三九 はこべ。

四〇 かはらなでしこ。

睡蓮科

四一 かはほね。

毛茛科

四二 やましやくやく。

四三 みつばわうれん。

四四 おくふくじゆさう。

小蘗科

四五 しろいかりさう。

木蘭科

四六 ほほのき。

四七 きたこぶし。

四八 てうせんごみし。

罌粟科

四九 くさのわう。

五〇 こまくさ。

十字花科

五一 ともしりさう。

薔薇科

五二 はまなす。

荳科

五三 えぞれんりさう。

五四 くず。

牻牛兒科

五五 げんのしょうこ。

芸香科

五六 ひろはのきはだ。

苦木科

五七 にがき。

遠志科

五八 ひめはぎ。

漆樹科

五九 ふしのき。

七葉樹科

六〇 とちのき。